令和6年度第2回 独立行政法人国立重度知的障害者
総合施設のぞみの園運営懇談会議事要旨

令和7年3月17日(月)
10:30~12:00
田中資料センター

I 開 会

II 理事長挨拶

III 議 事

1. 入所利用者の状況
2. のぞみの園における業務の取組状況
 - (1) 著しい行動障害を有する者等及び医療的ケアが必要になった者への支援について
 - (2) ターミナルケアについて
 - (3) 令和6年度 調査・研究の実施状況
 - (4) 令和6年度 セミナー・研修会等の実施状況
 - (5) 令和6年度 実務研修等の実施状況
 - (6) 令和6年度 援助・助言の実施状況
 - (7) 診療所の見直し・寮再編の実施状況
 - (8) 能登半島地震における被災者の受け入れについて
3. 令和7年度予算(案)について
4. 各種ウイルス等の感染状況等(令和6年度下半期)
5. 事故等の報告について

IV 閉 会

【議事に対する主な質疑(○:委員 ●:法人)】

入所利用者の状況について

- : のぞみの園を退所された方が、地域のグループホームなどに移行されると思うが、このような方々は全部で何名いるのか。またのぞみの園へ戻る可能性があるのか。
- : のぞみの園を退所された方は全部で16名となっており、まず旧コロニーの利用者につきまして、2名の方が、のぞみの園のグループホームの方に移行している。また行動障害の方は11名であり、この方々については、グループホームへの移行が6名であり、障害者支援施設への移行が5名となっている。行動障害の方は、群馬県外での受入れであり、各出身地のグループホームや障害者支援施設となっている。行動障害の方については、のぞみの園の中である程度状態が落ち着き、障害者支援施設やグループホームに移行しているが、移行先の施設で状態の変化がおきた場合には、再入所のフォローアップも検討することになる。矯正施設からの方については、自宅へ戻った方が1名とグループホームへの移行が2名、宿泊型の自立訓練施設にも1名の方が移行している。

- ：入所利用者の死亡者が12名ですが、増加傾向にあるのか。
- ：平成20年以降、大体10名前後の利用者がお亡くなりになっているので、令和6年度中の12名が特段多いという事ではない。死亡の内訳は資料に記載しているが、平均年齢は71歳と年々高くなってきており、高齢化による疾病等で亡くなる方が増えてきている。

のぞみの園における業務の取組状況について

(1) 著しい行動障害を有する者等及び医療的ケアが必要になった者への支援について

- ：医療的ケアについて、今回受け入れた1名の方の1年後、2年後、3年後ではどうい
う見通しになっているのか。
- ：受入れが始まったばかりであり、今後アセスメントをしながら、利用者本人に相
応しい生活となるよう、検討していくこととしている。
- ：行動障害の方や矯正施設からの方の枠として、何名の受け入れができる体制にな
っているのか。また、入所している方は有期限いっぱいに対応している方が多いのか、
途中で移行する方もいるのか。
- ：現在ハード面だと、4寮で40名となっている。1寮当たり10名という計算になる
が、計算通りには難しいというのが現状である。現在は37名の受け入れを行ってい
る。
有期限での入所の方は状態が安定した段階で退所をしていくこととなる。一応、3年
という期限が目途としてあるが、期限前でも利用者の状態が落ち着いて、また、移
行先が確保できたというところで、順次移行となる。実際のところ、行動障害の方
だと平均7ヶ月程度、矯正施設からの方だと5ヶ月程度である。

(2) ターミナルケアについて

- ：意思決定支援について、今後のぞみ全体で広げていく予定なのか。特定の人を条件
を付けて広げていくのか。また、ACPの構成メンバーはどのようなものとなってい
るか。あと介護保険との調整は具体的にどんな調整が行われるのか。
- ：ターミナルケアは気付き期から始まり、ここでは全利用者を対象に行っていく。そ
の後、看取り期は看取りがスタートした時点で構成メンバーによる会議を行ってい
く。ACPの構成メンバーは、寮職員を中心に、支援員、医師や看護師、保護者、弁護
士など。介護保険との調整に関しては、グループホームの看取りの場合、具体的
には、訪問医療、訪問看護、訪問歯科、訪問リハ、薬のサービスに関して調整してい
る。

(6) 援助・助言について

- ：援助・助言に関して、ここ数年の傾向を教えてください。
- ：援助・助言の問い合わせで多いのが、のぞみの園の利用や、のぞみの園の行動障害
に関する問い合わせが多くなっている。のぞみの園イコール行動障害に関する支援
というものが、少しずつ浸透されてきているのではないのかというイメージは持っ
ている。講師派遣では、行動障害に関する支援方法の組み立てなどについての問い
合わせが多い状況である。

- ：のぞみの園の利用に関する問い合わせは、例えばご家族からなのか、施設の方なのか、どういうところからが多いのか。
- ：のぞみの園は原則、家族などの個人からの問い合わせは受けつけていないというのが前提であり、個人の方は、まずはお住まいの各市町村にお問い合わせしていただくこととなるものの、やはり個人、保護者からの問い合わせは多く来ている。話の内容を確認した上で、お住いの各自治体の福祉事務所などを紹介する。その福祉事務所などを通して、のぞみの園に、自治体の方から連絡をいただいて、入所のエントリーをしていただくことをお伝えしている。

(7) 診療所の見直し・寮再編の実施状況について

- ：入院病床を廃止したとのことで、現在は診療所そのものがもうないという理解でよいか。また廃止した理由は何か。
- ：診療所について外来はこれまで同様に開設している。廃止したのは入院機能。入院機能を廃止した理由は、入所利用者の平均年齢が70歳を超えており、従来にも増して医療的な支援が必要になってきたことから、看護師の配置を生活寮の方に重点化し、寮の生活の中で医療的な視点も踏まえて支援することとした。
- ：地域医療機関との連携とのことで、一つは急患のような、例えば利用者の骨折などで診療をお願いしますというような形と、診療所で病気が見つかって、他の医療機関を紹介するというパターンが思いつくが、どういうふうに対応しているのか。
- ：外来診療通じて入院が必要と認める場合には、例えば高崎医療センターに連絡して、法人の車で搬送したり、緊急の場合には救急車による搬送をしている。医師不在時の怪我の発生や急病の場合には、オンコールの医師と連絡を取りながら、寮の支援員が救急車を要請している。

(8) 能登半島地震における被災者の受け入れについて

- ：今回の被災者についての地域移行というのは、地元である石川県に戻ることをいうのか。石川県の施設が復旧しない場合は継続的にのぞみの園で受け入れていくことになるのか。
- ：石川県の被災した施設だけではなく、視野を広げて家族と調整しながら地域移行を進めていくことが必要と考えている。被災した施設にこだわらず移行先を模索していきたい。

令和7年度予算案について

- ：予算関係について、収支の中で余った費用については繰越ができるとのことだが、繰り越した費用は、どのように充てていくのか。
- ：繰り越した費用については、用途が決まっている場合とそうでない場合があり、翌年度以降の全体的なやりくりの中で検討することになる。
- ：法人の事業収入が増えた場合に、運営費交付金は減らされることになるのか。
- ：運営費交付金については、予め中期目標期間中、今期でいえば令和5年度から9年度までの運営費交付金は決められているので、事業収入を増やしたからといってその分減らされるということはない。

各種ウイルス等の感染状況（令和6年度下半期）

- ：各種ウイルス感染に関して、職員の予防接種などの福利厚生はあるのか。
- ：職員は、インフルエンザについては、福利厚生でワクチン接種している。新型コロナウイルスについては、福利厚生はなく、職員の任意で自費により行っている。自治体によっては一部補助が出ているところもあるのでそこを活用してもらっている。

事故等の報告について

- ：事故件数 45 件について法人はどう評価しているのか。
- ：事故等は発生することのないように、法人としては取り組んできている。そうした中でも起きてしまった事故について法人では事故防止対策委員会を設け、事案の検証等をしてきている。今回の 45 件の事故では、同一の利用者について過去にも発生した事案があったかと聞かれれば殆どなかったが、一人の利用者で続けてというのがあった。経過を見ると利用者の機能低下が要因の一つになっているのではないかと考えている。誤与薬については、職員が利用者になんかの薬を投与しているときに、突発的に別の利用者に何かあったことなどで、その利用者に注意がいった、本来やるべきダブルチェックなどを怠ったことによる飲み忘れなど、そうした突発的な何かが起こったときに、誤与薬が発生しているのが、今迄の傾向としては多くなっている。事故等の未然防止対策の一環として今年度から各寮を巡回するという取組を始めた。例えば転倒や転落については、大体 2 ヶ月から 3 ヶ月に 1 回巡回に入り、防止対策がある程度寮の方で取れていれば、巡回は終了することになる。しかし誤与薬については、暫くして慣れてきてしまうと事故が発生する原因ともなるので、継続的に事故のあった寮に対し、職員のヒアリングや、半年以降の確認を行っている。

了